

第 12 回大和川流域委員会 議事概要

開催日時：平成 19 年 2 月 23 日(金)13:00～15:35

場所：王寺町地域交流センター リーベルホール

委員出席数：出席 15 名、欠席 2 名

1. 議事

(1) 第 11 回大和川流域委員会審議報告

第 11 回大和川流域委員会審議報告がなされた。

(2) 河川整備計画に向けた大和川の取り組みについて

河川管理者より、大和川再生に向けた取り組み、河川整備計画と Cプロジェクト計画 2006 の関係、Cプロジェクト計画 2006 の概要、河川整備計画原案の叩き台に関する河川管理者の作業状況について、説明がなされた。

Cプロジェクト計画及び河川整備計画との関連等に対する主な意見、質問は以下のとおり。

- ・「河川整備計画の原案の叩き台」に関して事務局内でワーキンググループを作って議論を進めている様だが、大和川流域委員会の議論をふまえた修正状況を説明して頂きたい。出来るものなら私たちも協力はしていく。
- ・Cプロジェクト計画に重点をおいたため、「河川整備計画の原案の叩き台」については作業が進んでいない状況である。今後、所内ワーキングを機能させ、府県とも協議し、また流域委員会でもアドバイスを頂きながら作業を進めていく。
- ・裴世清が難波津に到着してから海石榴市までをどういうふうにして上がったかということは、まだ少し議論すべきだと思うので、資料的な確認などをお願いしたい。江戸時代においては亀の瀬区間は船の通行は難しかったし、まして古代であれば、さらに難しかったと思う。
- ・教育や文化・歴史にきちんと光を当てながら市民や子供たちとともに活動し、教育・研究分野の活性化を図っていくということも、しっかり位置付けてもらいたい。「100万人の一斉清掃」については、清掃だけで川がきれいになるとは思えない。企業の生産のところから含めてゴミを減らすことや、ゴミを捨てないというモラルの問題などを提起すべきだと思う。
- ・子どもたちへの副読本をぜひ再発行して頂きたい。今の河川再生の取り組みが加速している内容を盛り込んで発行して頂きたい。
- ・Cプロジェクト計画では、水質に関して数値目標が上げられているようだが、これまでの流域委員会の中での水質の議論とどのように関係しているのか説明して頂きたい。
- ・Cプロジェクト計画で設定している「期待される水質」は、環境基準のレベルを大きく前進させたものとなっている。現在の環境基準は、大和川の状況が非常に劣悪だったころ指定されたものであり、大和川といえども環境基準を見直すべきだという議論をしたいと考え設定したものである。水質は BOD だけでなく色々なものがあるが、ここでは目標として象徴的に扱っている。色々な検討の中で環境基準を変えるということも視野に入れて河川整備計画につなげていきたいと思っている。

- ・大和川が汚れた理由や大和川が持っている背景を踏まえて、もう少し大和川だけでしかやれないことで、「よその川が見習うような川」というのはナンセンスなことだと思う。大和川の水質や景観を改善していくには大和川をもう少し違う角度から見直さないといけない。
- ・流域委員会で議論が必要なことは、大和川ではどれくらいのゴミが出るか、他の川に比べてどう違うのか、ゴミの背景にある社会構造を明らかにする事である。みんなでゴミ拾いのイベントをすれば良いというようなことは委員会で議論することではないと思う。
- ・データや汚濁のメカニズム、機構といったところに踏み込んだ考察をして、この委員会に示す必要があるという点については、そのとおりであると思う。頂いたご意見について、これから本格的に詰めた議論をしなければいけないと考えている。
- ・水質について目標値を定めるだけではなく、その目標値が何によって検証できるのかが重要である。大和川の生態学的な問題は、フナがいないということである。大和郡山を中心とした一帯は、金魚の国、フナの国であり、アユは大和川の看板ではない。フナのいる川を大和川に戻すためにどうしたらよいか、田と川をどのようにしてつなぐのかをきっちり目標を立てて考えることが重要である。大和川のワーストワンから逃れることは難しい。なぜなら何処の川もそれを目標にしているから。今のワーストワンでは測れない別の目標を立てることがいいと思う。それはフナやカマツカの川であって、アユの川では決してないことを提案することだろう。
- ・多種多様な動植物が生息・生育できる河川環境の保全の取り組みをするというときに、群落や植生の見方ができるところが少ない。河川植生に関しては、多自然型川づくりの推進しか記述がない。多自然型川づくりに際しては、攪乱・変動や河川形態の評価をし、本来成立すべき植生を評価して、河川の中だけでなく、河川植生を戻すところにも力を貸して頂けたらと思う。
- ・Cプロジェクト計画の「大和川らしい景観の創出」ということが書かれているが、実際は堤防沿いの道は車が走っており、なかなか安心して歩けない。堤防の上を川と周りの空間や景観を楽しみながら川風に吹かれて歩く、そういう楽しみを知ってもらえるような工夫も一つ必要だと思う。
- ・景観というのは状況によって変わるのが本来の景観であり、場所、場所の特性が写し出された姿である。また、親水空間整備で過度な整備をすると、本来の自然味ある川の表情が台無しになるので、人間が歩くべきところと、人間が近寄ってはいけないところを見極めながら、河川景観を考えていければと思う。
- ・各委員から、Cプロジェクト計画だけではなく流域委員会で検討すべき河川整備計画についても意見が出ている。河川整備計画そのものの作業は若干遅れ気味とはあるが、そのベースとなる河川整備基本方針の進捗状況について報告して頂きたい。
- ・現在、本省の担当部局と基本方針に関わる作業をしながら、適宜協議をしている段階である。
- ・河川整備基本方針検討小委員会の進捗状況に注目する必要があるが、今後のスケジュールについて教えて頂きたい。

- ・年度が変わった段階で、それまで進めてきたことをまとめて報告したい。
- ・Cプロジェクト計画を初めて見たが、この流域委員会と連携していないと思え、それが将来の大和川の河川整備計画の中でどういう位置付けになるのか心配である。Cプロジェクト計画が、河川整備計画と整合して進めていくことは非常に大事なことである。
- ・私もその点は非常に心配である。このCプロジェクト計画と河川整備計画が矛盾を来すことは決してないようにしてもらいたい。
- ・Cプロジェクト計画は、3年間での取り組みや取り組みの一部が盛り込まれたととらえている。水質、景観、歴史などの内容の具体化について疑念が多々あったと思うので、本日のご意見を踏まえ、これから良い計画づくりをしていきたいと思う。

2. その他

第13回流域委員会は、庶務から連絡を入れ日程調整を行うことが報告された。

以上